

137 北斎漫画 (2022年11月17日)

日本人で最も有名な芸術家と言えば、浮世絵師の葛飾北斎(1760-1849)の名前を挙げる方が多いのではないのでしょうか。北斎が描いた「神奈川冲浪裏」の大胆な構図や威風堂々たる富士山を描いた「凱風快晴」(通称「赤富士」)(*1)は、印象派の画家を始めとする数多くの芸術家に影響を与え、今でも見る人の目を惹きつけて止まない魅力があります。しかし、北斎がフランスの芸術界に影響を与えたのは、富士山だけではありません。今回は、北斎漫画に注目します。

北斎漫画は、漫画という言葉が使われていますが、フランスでも人気の高い漫画とは異なります。北斎による絵の手本帳です。江戸時代の人々の暮らしぶり、花、動物、鳥、虫や魚といった生き物、人の体の動き、風景など様々な事象のスケッチが集められています。当初は一卷で完結する予定でしたが、好評だったため、15巻に及ぶシリーズとなりました。北斎が生きていた時代に絵を学ぶ人の手本として、職人の創作の源として使われたものです。北斎漫画は、時代と国境を超えて、フランスを含めた国外の芸術家や職人にも新たなインスピレーションを与えました。

パリ装飾芸術美術館で、北斎漫画のスケッチから着想を得て制作された作品を観ることができます。一つ目は、エミール・ガレ作の鯉が描かれた花瓶(写真左下)です。写真では分かりにくいですが、北斎が描いた泳ぐ鯉(写真右下)が、花瓶の正面に描かれています。この作品は、1878年のパリ万博に出品されました。アール・ヌーヴォーを代表するガレ(*2)は、日本美術の影響を受けた芸術家の一人です。北斎が描いた鯉は、ダイナミックに動く鯉が描かれて、力強さを与える花瓶を生み出しました。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

もう一つは、セルヴィス・ルソーです。皿、蓋付きの深皿、鉢、ソース入れ、大皿など 200 余りの食器から成るセットです。ガラス工芸家で陶磁器専門の美術商でもあったフランソワ=ウジェーヌ・ルソー(1827-1890)が、版画家で画家のフェリックス・ブラックモン(1833-1914)に作らせました。この食器セットは、1867年のパリ万博に出品されました。北斎漫画に描かれた鳥、魚、虫や植物をモチーフとして、それぞれに異なるデザインが描かれた食器が制作されました。北斎漫画を見ると、鶏をモチーフとした皿(写真左下)の元となったスケッチ(写真右下)を見つけることができます。北斎漫画に描かれた鶏は、鶏のリアル感もありながら、デザイン性も高いものになっていることが分かります。



北斎漫画にインスピレーションを受けてフランスで生まれたこれらの作品を観ると、北斎のスケッチは、まるで写真のように被写体を生き生きと描いていると同時に、応用が可能なものになっています。ここに、北斎漫画が国や時代を超えて多くの芸術家や職人に愛され、新たな作品を生み出す源となってきた秘密があるのでしょう。

* 1 55 世界文化遺産・富士山

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100188065.pdf>

* 2 82 エミール・ガレと高島北海

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100243770.pdf>